

「きらりさん」の紹介活動を通して自己効力感を高める

目的

本校の児童は、明るく活動的な児童が多く、休み時間も友達と仲良く過ごせています。しかし、自分のよさに自信が持てなかったり、友達によさが認められなかったりすることも多いです。そこで、自己効力感を高め、安心して自分を表現できる児童を育てるために、「きらりさん」の紹介をおこない、認め合う場を多くつくることにしました。

内容

● 「きらりさん」の紹介の実践

毎日の生活の中で児童のがんばりやよさをいろいろな委員会が見つけています。そんながんばっている児童を、教師や委員会の児童が、全校生に紹介する活動です。

例) 美化委員会による「きらりさん」の紹介

本校では、全校生が黙って一生懸命清掃する「黙目清掃」に力を入れて取り組んでいます。毎日、清掃の時間には全校生が赤白帽をかぶり、黙って清掃ができれば白帽、お話をしてしまったら赤帽にしています。毎月、「黙目清掃週間」を一週間設けて、各クラスに「がんばりチェックカード」を配ります。そして、それぞれのクラスで児童同士が「きらりさん」を見つけています。また、教師は、がんばっている児童の写真を撮り、児童玄関の写真コーナーで紹介したり、「きらりさん」として、賞状を渡したりしています。(資料①)



資料①



資料②



資料③

例) 給食委員会による「きらりさん」の紹介

給食委員会の児童が、食べ物のお大切さの劇をして全校生に訴えたり、残菜調べをして食べ物のお大切さについて意識を高めたりしています。そして、残菜の少なかった「きらりさんクラス」を、火曜日の体育館朝会で表彰したり、給食委員会の児童が撮った「おいしい顔」を紹介したりしています。(資料②)

例) 音楽委員会による「きらりさん」の紹介

音楽委員会が「朝の歌」の時間に、時々各クラスに出向き、歌を聴いています。すてきな表情で歌っている「きらりさん」を児童同士で見つかったり、音楽の授業の中で口を大きく開けて歌っている児童を教師が見つかったりしています。火曜日の体育館朝会で、音楽委員会の児童と一緒にステージで歌ったり、「きらりさん」のコーナーに写真をはったり、名前を書いたりして紹介しています。(資料③)

成果

こうした取り組みをすることで、活動が承認・賞賛される機会が増えたので、自己効力感を持った児童が増えました。児童は、「きらりさん」コーナーをよく見に来ています。年に2回行っているアンケートにおいても、「自分が好き」という児童が7月には85.6%だったのが、12月には87.6%に増えました。

児童の良いところは多種多様にあります。今までは、スポーツ大会や学習面などで目立つ児童に賞賛が偏っていましたが、いろいろな委員会活動の中で賞賛することで、(この他にも、図書委員会による読書がんばっている「きらりさん」や、保健委員会による生活習慣がきちんとしている「きらりさん」など)賞賛の視点が豊かになり、たくさんの児童の自信へと繋がっています。